

3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、職員会議時に職員で理念の唱和を行っている。業務やケアで違いがある時は理念に沿って考え、実践するように努めている。来館者にも理解してもらえるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の店に入居者様と買い物に出かけ、地域の方との交流を図っている。またホーム周辺の清掃活動を行い、地域の一員として、日常的な交流を大切にしている。今後は、地域の行事参加を積極的に行っていく。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議で日常の活動状況の報告を行っている。今後、地域での研修や啓発の場に職員が良き地域住民からの相談事にのれるような環境を整えていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、家族の要望や地域との関わり方や役割など、活発に意見交換し、サービスの質の向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>地域包括支援センターや市の担当者とも制度等について相談や連絡をし連携に努めている。入居者様のサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日々の業務に追われ、気づかない内に言葉を遮断したり、気持ちを押しさえつける等、入居者様を抑圧していないか互いに注意している。 勉強会を行い、職員の共通認識を図っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会やミーティングを行い理解浸透や尊厳に向けた取り組みを行っている。心理的虐待など職員が自覚がない虐待の危険性について特に認識するように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会を開き職員の理解に努めている。管理者が主に対応しているので、全職員が理解しているとは言い難い。今後、知識を深めていくように努める。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間をとり、丁寧に説明している。特に事業所の考え方や取り組み、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。</p> <p>また、家族の相談や個別の相談に応じながら一方的にならないように心掛けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や面会時に、ご家族に意見を頂く場面も作っている。</p> <p>また、意見箱にて随時意見を表せる環境作りに努めている。</p> <p>面会時には日々の変化など細かな事も報告し、良い関係作りに努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議や個別面談で様々な相談を聞いて対処している。</p> <p>また、カンファレンスを行い、疑問やわからない点は全職員が把握できるように伝達ノートや記録物で報告している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>全職員、年間の目標を立てて仕事にやりがいを持って支援している。向上心を持って働けるように、職員の疲労やストレスの要因について気を配り職員同士の人間関係を把握するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修を職員のレベルに応じて、参加し知識を深めるように推進している。月に1回内部勉強会やその度必要なケアに関し、外部から講師を招いて全職員が理解できるように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連の事業所や他グループホームへの研修、事例検討を通して事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。形式的な交流の為、日々のサービスや職員育成に役立つ交流になるように連携を図っていく。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の相談や見学時から、本人の要望をお聞きし、入居後も不安な事はないか、常に本人にスタッフから声掛けや支援をしながら信頼関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から、ご家族のお話に耳を傾け、ご家族との信頼関係が築けるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から、入居者様やご家族のお話に耳を傾け、安心感をもってもらい、「その時」に必要なサービスにすぐ対応できるように努め、場合によっては、他のサービス利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が今までの暮らしが継続できるように、また入居者様が役割を持って生活できるように支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際は日頃の本人の様子や、お気持ちを伝えスタッフ全員が本人と家族の絆を大切に、寄り添ったケアに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでと変わらず、継続的な交流が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士で、会話できるように環境づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も介護サービスの利用についての、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に入居者様や家族に生活歴や思いを聞き、24時間シートを作成し家での生活が継続できるように、支援すると共に、日々の会話で把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的なカンファレンスを行い、本人の昔を知っている、ご家族からの情報収集、医療機関等の情報収集に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を詳細に確認し、個別の入居者様が、どのような状況であるのかを把握し、どのような対応が必要か検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良いサービスが受けられるように、入居者様を含めた関係者と協議し、それぞれの意見・意向を反映し介護計画を作成する。モニタリングを通して変化に対応した計画書となるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日バイタルチェック、全身状態の把握に努めており、個別に記録している。計画書に反映することでより良い介護が実践できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の利用者に対し、柔軟に対応できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会等と意見交換を行い、利用者が地域の中心で安心して暮らせるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居者様やご家族が希望するかかりつけ医になっており、受診や通院に関しても希望に応じ対応している。また、入居者様の普段の状況を電子機器に記録し、医療機関との情報を共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師が来所する他、病状変化の場合も来館されている。また職員も利用者様の体調や些細な表情の変化をに逃さないように早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	口頭や電子機器の記録を通して情報を共有しあい、早期退院に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の意向を踏まえ、医師・介護職員などがカンファレンスや終末期についての勉強会をする。また安心して納得した最期を迎えられるように随時、意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が防災訓練をマニュアル通りに実践したり、夜勤時のトラブルに直面した場合の緊急時対応、救急車が到着するまでの応急処置や準備すべきことについて、ケースを想定した勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼び掛けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格の尊重を行い、人間としての尊厳、プライバシーを損ねないような配慮と工夫を、職員が意識できているかを確認し意識向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせた、自己決定が出来るような場面づくりの働きかけを行い、個別の意志、要望を導き出せるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活で基本的な日課と流れはある中、その日の入居者様の体調、精神面において柔軟に対応できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の好みをしっかりと把握して意向を聞きながら、理美容サービスが受けられるように支援し、毎朝整容時も意向を確認している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中、会話ができるようにしており、音楽をかけゆっくりに楽しむ雰囲気づくりを図っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量、飲水量のチェックをし残食内容の確認を実施し、食事摂取量が少ない方には、栄養補助食品の提供、水分摂取が少ない方にはスポーツドリンクをゼリーにし提供するなど、その方が無理せず摂取できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり声掛けをし、口腔ケアの誘導を実施している。義歯は夕食後に、義歯専用洗剤に浸け、清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導、日中と夜間の尿量などに応じてパットの種類の調整を実施している。またトイレに行きたいと入居者様が思われた際に、すぐに誘導、お手伝いができるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の確認を行い、排泄の状況など職員間、連携病院と緊密に共有し、医療機関からの指示を仰いだり、適度な運動を働きかけ、予防、対応している。便秘による入居者様の変化に注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴が苦手な方にも無理せず入浴して頂けるよう、様々な入浴方法をその都度取り入れ、入浴日にこだわらず、調整を行い異性職員による入浴介助に抵抗がある方には、同性職員が対応するなど、入浴が嫌にならないよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに合わせて、体操や調理、掃除、買い物などの支援に努めながら、安眠できるようにケアしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用の薬情ファイルにてスタッフがいつでも閲覧できるようにしており、スタッフも薬についての知識を深めるため、定期的に勉強会を開催している。服薬時は、お名前、日付を読み上げて必ずスタッフと確認しながら服薬して頂くように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除を出来る方はして頂き、個々に応じたモップ掛け、手すり拭き、洗濯物たたみを声掛けしながらされている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日など季節の花が咲く頃は、公園に出かけるなど、個人の要望を聞きながら対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の要望が強くお金は持たせていないが、お金の心配をされる方が数名いらっしゃるのでご家族のと相談し、買い物の時など自分で支払って頂き本人の安心や満足に繋げていけるようにする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りに努めている。しかし、電話をするのは特定の方なので他の方にも外部との交流を持てるように支援していく。手紙を書く方はいないが、促して個別に支援していく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは入居者様と一緒に考えて季節に合わせて掲示している。居室は個々の好みに応じて家具の配置などし、入居者様が活動しやすい環境作りに努めている。廊下に椅子やテーブルがあれば、憩いの空間が出来るため検討中である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングの為一体的な作りである。スペースがない為、ゆっくりと座る場がないので、テーブルの配置やテレビの場所など臨機応変に対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や椅子などは、入居者様の思い出や安らぎを得る手段の一つとなっている。個々の個性に応じて家具の配置や飾りつけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個人によってトイレの場所やベッドの位置など一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮している。新たな混乱や失敗が生じた時は、その度職員で検討している。</p>	/	/